

あずみ 安住さんの授業

安住さんというのは、最も人気のあるアナウンサーとして不動の地位を占める TBS のアナウンサー安住紳一郎さんのことである。たまたま見た TV 番組「ぴったんこカンカン」に、その安住さんが明治大学の齋藤孝教授と一緒に出ていた。日本語能力や読書文化の重要性を訴え、「声に出して読みたい日本語」など多くの著作がある教育学者齋藤さん、明治大学文学部出身の安住さんはその教え子だったという。齋藤さんが担当する明治大学の講座に先輩である安住さんを連れて行く、というのが番組のその日の企画であった。

安住さんは、今まで見てきた中で最も優れたプレゼンテーション能力を持つ学生だったと齋藤さんは語る。ある時、学生に短い授業をやってみろと課題を出したが、誰も手をあげない。齋藤さんが「教師を目指そうというものが、たかが数分のプレゼンもできないのか！」と叱咤したところ、出てきたのが安住さんだった。語り始めた安住さんは、そこから 40 分間滔々と日本語についての講義を展開した。そのあまりの素晴らしさに教室にいた全員が、終わった瞬間に立ち上がって拍手を送ったという。「人の前でプレゼンをするのが天職だと思った瞬間だった」と述懐する安住さん。

大学に到着し、学生たちに拍手で迎えられた安住さんは、齋藤さんに指示され学生の間席に坐る。この日の課題は、太宰治の『走れメロス』をテーマにして 5 分の授業を展開するというもの。まず学生の何人かが数分ずつ自分なりの授業を展開する。紙芝居を使って行うなどの工夫はあったが、内容はいずれも物語の展開もしくは登場人物の心理の解説で、参考書に出ている程度だ。そして最後に安住さんの登場。

安住さんは、日本語の面白さをとらえるには「走れメロス」は大変良いと語り始める。そして、太宰の文章表現をとらえる視点をいくつか紹介する。文章の一部を読んで見せ、そのリズム感と言葉の独創性は、博報堂のキャッチコピーにも匹敵すると語る。なるほどとうなずく学生たち。

つづいて、太宰がメロスの走る速度を「沈みゆく太陽の 10 倍の速度で走った」と表現したことについて語る。ありきたりの「目にもとまらぬ」や「風を切って」ではない個性的な表現、しかし「太陽の 10 倍の速度」とはいったいどんな速度か。作家であり明治大学工学部講師である「空想科学研究所主任研究員」柳田理科雄氏が計算したところによる「太陽の 10 倍の速度」のデータを使って解説する。

「太陽は動かない。つまり太陽の速度というのは地球の自転の速度、であるから時速 1300 km。これは新幹線の 44 倍の速度、100m 走だとどのぐらいか。世界最速の男ウサイン・ボルト、彼は 9.69 秒で走る。ではメロスは？ なんと 0.02 秒！」黒板に忙しく板書しながらの解説に笑いが巻き起こる。「そして、このスピードで走れば周辺 2 km 四方には衝撃波がおこる。凄まじい風と音、物は破壊される。だから、『走れメロス』ではなく『走るなメロス』」爆発した笑いの渦の中に、ありきたりでない独創的な表現の面白さをとらえることが、国語、また文学の魅力であること、そしてそれを子どもたちに伝えることが教師の仕事であることを感じさせて、安住さんの 5 分間の授業は終わった。

(研究開発部 矢口みどり)

JADECニュース92号 (2014/5/20) より